



フクロウの目は夜しか見えないの

昼間も見える

フクロウの仲間は、昼活動するものもいますが、夕方から真夜中にかけて活動するものが大部分です。昼はねむっていて、夜活動する、夜行性の動物の仲間になります。夜活動する動物は、たいいてい、うす明かりの中でも、人間よりよく見える目をもっています。

フクロウは、昼間も目は見えます。たとえば、雪に日の光があたってまぶしい冬の朝、木の枝にとまって、じっとしているフクロウを見つけて近づくと、フクロウはすうっと羽を動かして飛び立ち、ほかの木へ移ってしまいます。目が見えて、人が近づくのがわかったからです。

えさが不足すると、昼間飛ぶこともある

真夜中に、真っ暗な中でも自由に飛び回って、獲物をとらえるメンフクロウなどは、よく見える目のほかに、かすかな音をとらえる特別の耳をもっていて、音で獲物を見つけます。しかし、食べ物不足したり、ひなが大きくなって、よくえさを食べる夏の終わりごろは、昼間でも活動して、獲物をとらえることがあります。

夜になると目が見えない、「鳥目」といわれているニワトリも、うす暗い所でも、物を見ることが出来ます。

昼活動する動物は、明るい所のほうがよく見える目、夜活動する動物は、うす明かりでよく見える目のしくみを、もっているといえます。（監修・今泉 忠明）

